

第28回 DAAS運営委員会 議事要旨

1. 日 時：2014年9月30日（木） 午後3時00分～午後5時00分

2. 場 所：公財）建築技術教育普及センター内第5会議室

〒120-0097 東京都千代田区紀尾井町3-6 紀尾井町パークビル3階

Tel：050-3786-0568

3. 出席者（敬称略 順不同）

運営委員長：三塩（日本設計）

委 員：末富委員（住団連）、竺委員、真木委員（建築学会）、青木委員（BCJ）、
早川委員（日建設計）、早川委員、鈴木委員（士会連合会）、

IOS：坪田 IM、上村 IM

事 務 局：武藤

4. 配布資料：

資料 DAAS第9期総会資料 及び第4回理事会

5. 議事：

■承認事項

〔議案1〕 DAAS 第9期総会資料及び理事会資料について

資料に基づき、2014年10月23日に行われるDAAS第9期総会及び理事会の議案について説明を行った。各議案について、以下のような質問と意見交換が行われた。予算案の変更と追加議案である会費規程の変更については委員の意見を求め、別途メールにて審議することとした。

資料1 事業報告書(案)について

【以下、質問、意見等】

（青木委員）WGの報告書のまとめがあるが、本WGの方向としては、次のようなことでよいのだろうか。

- ・DAASの活動のために法人格が必要。
- ・法人格を取得する場合は一般社団法人が妥当だと考えている
- ・ただし、単独で法人格取得などを目指すには（費用的にも基盤としても）厳しい状況もあり、文化庁の機関やその他機関との連携や統合も含めて検討する必要がある。
- ・その為には、国交省、会員の協力のもと、ここ数年で方向性を見いだしていきたい

(笹委員) DAAS の在り方として一番望ましいのは独立で法人格取得をして活動を続けていくことである。

(事務局) 独立でまわれれば、それが一番なのだが、現在はその可能性が見いだせない為、連携・統合等を考えている、ということである。現在の DAAS は民間企業が会費で支えるという状態やその継続性・永続性に不安を抱えている。アーカイブは継続することが大事であるが、活動の理解を得るにはまだ時間がかかる。どのような継続の方法が考えられるか、それを整理しながら、かたやコンテンツの方向性、一定の分野やスケールが充実して、アーカイブとして独立できるような体制になることも考えられるが、他の機関や文化庁の近現代資料館の動向を見ながら、他団体が DAAS のようなアーカイブを必要とするかどうかをここ数年で見極めること、DAAS の在り方を明確にしてそれまで持ちこたえる体制を作っていくたい。

(青木委員) 前回の委員会でも、文化庁でも、アーカイブについて気運が高まっているということだったが、実際に概算要求などされているということであればオフィシャルなことであるので、可能な範囲でその点を文章にしてはどうか。

(事務局: 三塩) まだ、書面の中にその内容を含めるのは難しい。どの程度の予算がつくか、どのような活動の内容になるか詳細が決まり、来年度事業になると思われるが、アーカイブ自体の気運が高まる、活動が目に見えてくるのは2~3年はまだかかると思われる。その中で資料館収蔵やデジタルデータ化、データ管理という活動が行われる際に DAAS のプラットフォームを活かせるかどうか、が一つのチャンスではないかと思われる。直ぐにそのプラットフォームが活かされるようになるかは不明である。その他考えられる方法としては、文化庁の年度毎の委託事業を受けるとのこと。その場合には法人化の必要がある。現在、国交省の予算は継続して得られるかどうかわからない。そのような状況という危うい運営であるので、一方で文化庁の資料館との関係が築ければ安定化の一つの手段となりえる。そのようになれば会員企業の会費を下げた裾野を広げて会員を広げる、などの安定化が考えられるのではないか。そのような道を具体的に第9期に WG、部会を設置して描いていくということになるのではないか。

(青木委員) 今の資料では、そのような考え方、方向性がよく分からないので、可能な範囲で付け加えていただければどうか。

資料2 収支計画書(案)について

【以下、質問、意見等】

(日建設計: 早川委員) 質問として。(決算額欄ではなく予算欄について) 事業活動収支差額がマイナス 3,240,000 円とあるが、あらかじめ予算として組んでいたものか。

(事務局) そうである。毎年、繰り越しを0で設定している。

(日建設計: 早川委員) 通常は予備費で調整をするものだと思うのだが、もともと事業活動収支差額を赤字で設定していたのだろうか。

(事務局)これまでは、繰越金を見越した事業活動での支出設定をしており、単年度予算でいうと収支差額は赤字になるという設定をしていた。

(日建設計:早川委員)次期予算については、収支を赤字とせず、予備費で調整をして繰り越しを0にしているが。

(事務局)WGでも検討してきたが、次期からは活動の継続のため予算自体を圧縮し、単年度で黒字を出すような予算案を検討し、その内容を第9期の予算案に反映し提出した。その点は大きくこれまでと違っている。予算案のたてかたについては、設立第1期は準備会の繰越金のみで(当年度の収入は0として単年度赤字で)予算案をたてていたせいもあるのかもしれないが、同様の予算設定をしてきた為、単年度での赤字設定については、何故かというところは不明である。また、ここ数年は、予算を圧縮して単年度黒字の決算となっているが、それ以前は単年度では赤字計上であった。繰越金や、事業規模の変移についてWGの報告書に資料があるので、事業報告にその資料を追記することを考えたい。

資料4 事業計画書(案)について

(4)のコンテンツ整備について、DAAS運営基盤安定化WGでの意見を反映し一部文章の修正をしたい旨、事務局より口頭説明を行った。修正内容としては、コンテンツ作成支援金を活用した新しいコンテンツ可能性と検討を「企画運営部会(仮称)」で行う、という内容であった。

【以下、意見】

(事務局)委員会の前に開催したWGでの意見があがっており、その内容について事業計画(案)に追記の必要があると考えている。

(笹委員)前回同様のコンテンツ制作を維持することに加え、WGでは新しいコンテンツの可能性を考えたいという意見が出ていた。DAASのメリットは何か、を検討した際に、今後ユーザーのメリットとなるようなコンテンツ制作、企画部会で具体的な検討をしたい、という内容があった。

(事務局)新しいコンテンツの可能性を検討し、収蔵ターゲットの設定、他の団体との連携によるコンテンツ整備等補助金事業の300万の中から実績を積めないかという意見だった。その内容を加えたいと考えている。

(青木委員)WGと部会との違いは何か。

(笹委員)WGとはアドホック、特定の目的の為の短期間のものというイメージである。部会は継続性があると理解しているが。

(事務局:三塩)第8期当初に運営基盤安定化にむけたWGの設立について提案をし、すすめてきたが、第8期である程度の目的を達したと考え、第9期は部会に育てて、通年でその内容を掘り下げていこうという動きである。継続性を考えると現在のWGメンバーを中心として、その他委員の参加も御願いしながらすすめていきたい。

資料5 収支予算(案)について

収支予算(案)が企業会費の収入を変更した3案を添付していることについて、DAAS運営基盤安定化WGで収支シミュレーションによる会費設定等を検討した上で予算案を作成予定であったが、WGでは会費設定の結論に至らず、予算案としても決定できなかったことを事務局より口頭説明を行った。委員にも会費についての意見を求め、意見交換を行ったのち、会費を企業会員の一口36万を32万に減額し予算案を作成すること、また会費規程変更については総会での決議事項となるため、総会議案に会費変更案が追加されることを説明した。

【以下、意見】

(事務局:三塩)日本設計でも会費設定についての減額をしたいという意見があがっている。全体的な会費を圧縮しながら全体的に少しでも会費を減額する、という案をp26に示しているが、それ以外に二口の企業理事会員3社を一口に減口した場合など、いくつかのケースを運営基盤安定化WGで議論した。しかしいづれにしても、予算はかなり厳しい状態である。会費変更がある場合、総会議案となる。会費をどのようにするかWGでも様々意見を頂いたが決定には至らなかった。委員からも率直な意見を頂けるだろうか。理事を降りということについては、運営委員会に諮るものだろうか、総会だろうか。

(事務局)委員会に諮ることとはなっていないが、理事の変更、理事名簿変更は総会の決議事項である。

(日建設計:早川委員)会費を一口に、つまり、理事を降りたいということでもよいのだろうか。前回の委員会では、会費の額を変えることを検討されたということと、本日の委員会でその案が提出されるかと思っていたのだが。結論が、会費変更は行わず、会費を一口つまり理事を降りると言うことが出来るということであれば、社に諮りたい。

(事務局:三塩)会費設定の変更については、前回、運営経費＝事務所経費50～60万程度が(第8期から第9期で比較して)圧縮できることとなった。それにより全会員のメリットとして会費を全体的に少額減額する案が一つ考えられる。減口、つまり理事を降りると言う申し出を受けると言う案。日本設計も減口により会員として継続と言うことは考えられる。後者の場合は収支として単年度赤字ということで、繰越金を削っていくことになる。

(事務局)公平に、圧縮分により全体会費を下げるというシミュレーション案を作成したが、WGでは理事会員の減口を検討するという案が出た。その場合は費用を圧縮しても単年度では赤字となる結果が出ている。

(日建設計:早川委員)赤字というのは結果なので、考え方の話をしておかなければならない。

(事務局)WGでメールでの討議をして、数字を決定するという予定だったが、決定には至らなかった。

(鈴木委員)先ほどWGでは理事会員の二口という点についての意見が出た。好意で二口と言うことはありえるが全体的に一口にすべきか、という意見もあった。経費自体は移転による費用の縮小と常駐職員も一人のみと、これ以上下がることは難しく、その代わりに、会員を増やす、コンテンツによる収入を増やす為に法人格を取得したい、そういう方向ではどう

- か、という意見もでた。事業計画に会員の拡大を含めようという意見もあった。
- (日建設計:早川委員) 法人会員が二口ということは規程にあるのだろうか。その場合規程の変更となるのか
- (事務局) 規程変更となる。
- (笠委員) 会費は平等でという規程に変更し、好意により支払い頂ける場合は二口という考え方はある。
- (鈴木委員) 理事を降りる、企業がそのように希望しているならそのようにすべきでは、という意見もある。補助金についても前年度と同じコンテンツ制作をするのではなく、新しいコンテンツを検討すべきではという意見もあった。これから会員が増える努力をどのようにするか、ということになる。
- (青木委員) 前回の話では、公益財団法人建築技術教育普及センター(以下、普及センター)に移転することで圧縮できた 60~70 万円分を薄く広く会費をさげることで会員の理解を得て当面を持ちこたえるということでシミュレーションしたかと思う。またその費用設定であればいけるのではないか、という意見も出ていたように思うが、それでは日本設計も説得できない状況となっているということなのだろうか。前回、企業会員は二口で 48 万という設定だったと記憶しているが。
- (事務局) 前回の委員会後、必要経費について再度精査した。普及センターへの移転条件を確認し、支援を受けられない費用(通信費など)と、第8期で増額となった WG の費用(旅費)を増額したところ、前回提案した会費設定、企業会費 36 万から 24 万という減額では予算的に難しいということとなった。その為、今回提出した金額は会費減額分の下げ幅を小さくし、36 万から 32 万に減額というシミュレーションにした。しかし、改めて WG で討議をすすめる中で前提条件が様々変わってきており、前回シミュレーションの状況と大きく変わってきている。
- (事務局:三塩) 日本設計として、その金額でよいかどうか、もしくは理事会費の設定の変更ということだろうか。いずれにしても持ち帰って検討するということになるのだが。
- (鈴木委員) 良い案があればここで検討したい。
- (日建設計:早川委員) 前回は24万という会費設定だった。
- (事務局) その案も提示した。36 万を 24 万に減額した案だった。また支出については、必要経費を洗い出した上でパターン A,B・・・等設定しシミュレーションしたわけだが、パターン A でもかなり経費の削減をしていた。前回の委員会ではその次のパターン B で来期支出、予算検討をするとのことになり、改めて費用を確認した。24 万の会費設定では難しいということになった。
- (日建設計:早川委員) 社内での持ち帰る案としては、どのようにすればよいか。36 万から 24 万に変更した案が再度検討して 32 万となった案、二口は継続という案、もう一つは会費規程を変更し理事会費を 36 万のまま二口から一口に変更するという案、であろうか。
- (鈴木委員) 企業会員の理事としてどの範囲の会費を出せるか検討頂くということではないか。

二口会員会費が高いという話がでているので、一口とすることで、会員を継続できるのではないかという期待もある。

(日建設計:早川委員)前回の一口で24万という会費設定、つまり二口で48万であれば、ということで社内では内々に確認していたことではあったが、規程変更等も含めて一口で36万ということでも、二口48万でも、どの程度の会費なら出せるかということではないのだが、24万で二口ということが理にはかなっているのではないかという話しである。

(事務局:三塩)全体に会費に費用圧縮分を還元するというので、だろうか。

(日建設計:早川委員)今の話しでは32万よりもどしになったということになるのだろうか。二口ということで48万が64万ということになるのか。

(事務局:三塩)その内容で私も一旦持ち帰ることになるかと思われる。企業としては厳しい金額である。

(鈴木委員)二口で64万より一口で(36万)持ち帰る方が会社を説得しやすいのではないかと思われたのだが、24万という案も前回出たのであろうか。全体を24万に変更とすると予算として全く足りないのではないか。

(青木委員)一口に減口した方が、持ち帰りやすい案だとは思いますが、一旦その形での予算案とすると、なし崩し(で全体に波及する)ということになるのではないか。大変だということはいく分かるが。

(鈴木委員)皆さんが平等の口数になるのは大変だろうか。

(事務局)シミュレーション上としてはかなり厳しい。国交省からも話しがあったが、そこまで下げる前に、今後努力をして縮小して行く中で、目標をたてていき、まずは24万まで下げずに会費下げ幅を小さくして案を出したらどうか、という話しもでていた。

(日建設計:早川委員)36万のまま二口が一口とする場合と、全体に24万とする場合の方が、インパクトは小さいのではないか。その際のデメリットはなにか。新しく会員を増やす際に問題があるのだろうか。

(事務局)それはないかと思われる。ただ、全体的に圧縮分を会費に還元していくということにはならないことの問題があるのではないかと考えている。理事会員の負担は大きいですが、他の企業も会費減額をすることでの継続を検討するという話もあった。

(鈴木委員)36万という金額で持ち帰った方が自社を説得できるのか、というところではないか。

(日建設計:早川委員)理事を受けるときの判断として理事会員が二口ということだったのだろうか。

(事務局)それを含んでの理事承認であったのかと思われる。

(事務局:三塩)会費規程を作成した際に、理事会員の設定、二口の設定にした趣旨がわからないが。

(事務局)必要経費と会員数での会費設定をしていたと思われる。また年間費用を1000万規模(実際には1500万程度の可能性有り)と見込んでいたと思われる。

(青木委員) 今回の経費節減の効果を、二口企業のみが受けてという形になった場合、規模の小さな企業から理解が得られるのかということが心配ではある。

(鈴木委員) 理事のメリットとは。

(事務局) 理事会の議決権ということになるが。

(事務局: 三塩) 現在の理事会員は、企業として日建設計、新建築社、大和ハウス、日本設計の4社である。還元を平等にということは検討してきたことだが、その下げ幅はシミュレーションの中で様々な数字が出てくるのは仕方がないことで、全体に還元するということは良いことだとは思う。ただしそれぞれの企業として説得ができず、それでは支払えないので退会ということが気になる場所ではあるのだが。理事企業が2口会費ということが疑問であり、会費減額とは別の理由、規模縮小・収入とは別に「理事企業の設定をやめる」ということの議論があってもよいのではないかとと思われる。ただし収入減につながる場所であるので同様に議論をしているのであるが。企業理事4社のみという場所に疑問がある。

(鈴木委員) この4社のみ理事のメリットがない中費用が高い事が気になっていた所である。

(日建設計: 早川委員) 理事企業が変わってもよいのでは、と感じている。固定されている場所にも疑問がある。設立時に決定したという所では説明がいかない。そこは整理して頂きたいところである。

(事務局: 三塩) 理事の件についての議論は来期クリアにするということだろうか。

(事務局) 会費変更については総会議案として提出する必要がある。役員が一口となるのも、会費減額もどちらも総会議案である。

(事務局: 三塩) 自社には、減額が決まったと言うことで、36万、32万になったことで持ち帰り、会員継続の可能性を探りたい。方向としては会員全体に還元するということで運営委員会の方針を総会で諮るというところだろうか。理事企業の位置付けを来期検討して次の総会で諮ることもあるかもしれない。会員の拡大は来期方針として、一口32万で払って頂く企業を探るという所ではないか。会費設定を32万でシミュレーションしたものはp26の資料を元として、企業会員の費用部分の訂正をし、訂正した予算案を総会に諮る。

(日建設計: 早川委員) 会費規程を32万に変更するという議案と連動するということだろうか。また理事継続かどうかについても検討し持ち帰る。

(事務局) 理事継続依頼については書面で送付し、総会前に内諾を頂けるかどうかの確認をする。内諾を頂けるかどうかの回答により理事名簿(案)を作成する。

(日建設計: 早川委員) 理事数の規程はどのようになっているのか。

(事務局) 規約上3名以上30名以内となっている。

(青木委員) 理事・監事名簿案があるが、各団体にこの内容で依頼されていると理解すべきなのだろうか。

(事務局) これは現状の理事名簿を添付している為変更となる。

以上